



ARAUCO®

2024年7月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

チリ南部は6月中旬頃から南極低気圧による大雨が2週連続あり、コンセプションあたりでも水害の被害が発生しました。南部を中心に10,000戸以上の家屋が床上、床下浸水の被害を受けております。例年は7月から8月に大雨のピークを迎えますが、世界的な異常気象の影響で、今年は1ヶ月以上も早い大雨のシーズンになりました。

銅価格は過去高値の4.6-4.7ドルから昨年は下落傾向が続いて、昨年後半には3.5ドル台あたりで底を打ち、年初からは3.9-4.0ドルで高めに推移しておりました。

4月から世界的に銅の需要が増えており、5月には5.0ドルを初めて超えましたが、6月から下げ基調で現在は4.3-4.4ドル台になっております。

為替は昨年800ドル前半までペソが買われましたが、夏場になり940ペソ安ドル高まで進み、昨年後半からは再び900ペソ台前半で落ち着いております。

2. 世界市況

引き続きベルシャ湾の船舶迂回措置により、ホワイトウッド下級材が中近東や韓国で入荷減、コスト高が続いております。6月はアラウコで過去最高の22,000 m3を韓国市場へ、7月は33,000 m3を中近東市場へ販売をしております。

製材価格は年初から約15%値上がりをしております。

5月末に閉鎖をしたアラウコのエルコロラド工場（2番）の生産数量とチリ国内の丸太不足は今後の生産体制に影響を与えるようです。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2024年5月配船（2番船）の川崎入港は7月3日を予定しており、名古屋、大阪へ寄港します。7月配船（3番船）は、チリ製材で初のCenturion Bulk（Singapore）が配船を担当します。8月中旬のお盆明け以降に川崎へ入港する予定です。

次回船は9月配船（4番船）を予定しており、11月に日本入港する年内最終バルク船になります。今年最終配船は11月配船（5番船）となり、日本入港は2025年1月を予定しております。残念ながら今年も昨年同様にバルク船の配船数は5船となります。今年も昨年のように Bertling 独占ではなく、1番船は Bertling, 2番船は NYK, 3番船は Centurion で契約する船社が毎船違います。チリサライヤーは出来る限り船運賃を抑えて、収益重視の販売体制にしたいようです。

B) 梱包市況

梱包需要は5月連休明け以降も静かで、6月の梅雨シーズンを迎えております。製材価格も梱包市況が良くないので、値上げが浸透していない状況で、2番船の販売が本格的に始まる8月までには2000-3000円の値上げを浸透したい方針です。

為替の円安傾向は止まらず、各社の製材コストは船ごとに上昇をしており、製材価格の値上げは早急に実現していく必要があります。

国産杉製材も2024年物流問題、丸太伐採減少傾向により、製材価格は春以降強くなってきております。建築部材が低迷をしており、引き続き梱包資材を挽きたい製材工場も多く、チリ材、NZ材、道カラ松材等と梱包市場で競合をしております

今後、円安ドル高局面が更に進んだ場合、チリ大手サプライヤーが日本市場をどのように見ていくか、現地と真剣に対話をしていく必要があります。

2番船の入港が1ヶ月以上遅れている為、サイズによっては在庫が無い市況が発生しております。

c) アラウコ乾燥材（KD）

ヌエバアルディア工場（12番工場）のKD材生産シフトの増量だけでは、5月末に閉鎖をしたエルコロラド工場の生産数量をカバー出来ない状況です。

6月現在でアラウコは世界で約20,000m³のKD材バックオーダーを抱えており、8月に予定をしていた日本向け厚材も生産数量が確保できない状況です。チリラジャータパイン材からアルゼンチンタエダパイン材へ移行するユーザーも世界で先月から増えており、日本向けタエダパイン材もラジャータパイン材と同様に生産数量が確保出来ない状況になってきました。

またブラジルもチリと同様に先月から天候不順が続いており、タエダパイン材の生産数量が減少しております。東南アジア諸国ではブラジルの不足分をアルゼンチンへ増やすユーザーも出ており、生産数量がタイトになっております。アラウコは昨年2月の大規模森林火災の影響がなかったバルデビア工場（8番）に乾燥室を増設することを決めましたが、完成は今年12月末になりそうです。しばらくはチリ、アルゼンチン共に生産数量がタイトな状況は続きそうです。

以上